

しゅん時の判断 救った命

題材のねらい

東日本大震災時において、多くの命を救った中学生の避難行動について考え、避難する際の心構えを理解させる。

教科等との関連

学校行事 (3) 健康安全・体育的行事

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入	釜石東中学校の生徒たちがとった行動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 時間をおって、中学生たちがどのような避難行動をとったか、時刻と地図を対比させながら確認する。 想定浸水域外であることで安心して学校に留まっていたら、鵜住居小学校や小学生たちは、大きな被害を受けたことに気付かせる。
展開	なぜ、小学生や中学生が全員無事避難することができたのかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 中学生が逃げる姿を見て、小学生が避難を始めたように、自ら率先避難者になることの大切さをつかませる。 大きな揺れで津波、避難場所が川の近くで津波が心配、崖崩れが気になりなど、起こりうる危険を判断していることに気付かせる。 津波の音が迫ったりする状況で、少しでも安全なところに、少しでも早くと、最善を尽くして避難することの大切さを伝える。 小さい子など、災害時に支援を必要としている人に、力を貸そうとする気持ちを持たせる。
まとめ	災害から命を守るために、大切なことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 中学生たちの「避難の3原則」をおさえると同時に、「平野校長の言葉」から訓練してきたからこそ、無事に避難できたという言葉の重みを伝えたい。

しゅん時の判断 救った命

2011 (平成23) 年3月11日、午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震。岩手県釜石市の釜石東中学校の生徒たちは、何度も行ってきた合同避難訓練どおり、鵜住居小学校の児童の手を引いて避難しました。津波で校舎3階までしん水しましたが、校内にいた全員が無事に避難することができた中学生の行動を追ってみましょう。

1 14時46分～50分 「ゆれが強いし、強い。校舎つぶれるかも」
 足が海の方へ引くように地面が大きく揺れた。3年生の菊池さんは、プレートの境界線から津波がくると直感した。グラウンドに避難しようとする生徒に、先生たちが「にげろ」と声をかけた。3年生の山本さんは、みんなが校門の方へ走り出すのを見て、全速力で駆け出した。鵜住居小では、津波のうねりが早いかもしれないと判断し、児童を校舎3階に避難させていた。しかし釜石東中の生徒が走るのを見て、校外への準備を始めた。

2 14時50分～15時 「全速力で校門の外へ。小学生といっしょに」
 菊池さんは、鵜住居小をすざた辺り、大津波警報を知らせる防災無線を聞いた。この辺りは津波が大きくなりやすい地形だから、指定されていた避難所のございしよの里も危ないと思った。山本さんは、ございしよの里に避難より早く来た。鵜住居小学校と数メートルしかちがわないし、川の近くなので、津波がさかかってくるのではないかと考えた。

3 15時～15時10分 「げくずれが起きていて、とんでもないことが起こる」
 小学生もございしよの里に向かっていた。聞いた者からございしよの里まで避難した。学校委員の指揮の後、菊池さんは、げくずれも危ないと思った。クラスメートと、「ここは危ないよね」と話し合った。「もっと上にはげくずれが怖い」と心配する声も聞こえた。

4 15時10分～ 「もっと上へ。高台へ走る」
 ございしよの里に小学生が全員避難した。「ここも危ない」先生から、「中学生は小学生一人と手をつないでここより高台のやまざきデイサービスにげくずれ」と指示が出た。菊池さんは、4年生ぐらいの男子と手をつないで出現した。ゴゴゴという音も聞いた。小学生には、「だいいょうぶだからね」と声をかけながら避難していった。

5 15時17分～30分 「ふり返るとけむりが見えた」「面がない。走れ、走れ」
 別の前の生徒が走り出した。山本さんも走りながらふり返ると、海の方にけむりが見えた。デイサービスのちゅう車場とうるまると、津波の音の聞こえなくなった。菊池さんは、ちゅう車場で男子生徒がさわぐのを見た。次のしゅん間、海の方を見て、面がないことになった。山本さん、「にげろ！自分の命は自分で守るんだぞ」と先生がさげんだ。さげんの手前には急な坂がある。若い子ども二人の手を引く母親に気づいた生徒が一人あつた。サッカー部の生徒は、体育館の子どもを乗せた手押し車を避難に代わっていた。最初にはげくずれていたございしよの里が津波にのまれたのは、全員がはげくずれて約5分後のことだった。

6 15時30分～
 生徒たちは避難所にたどり着いた。津波はやまざきデイサービスの手前で止まった。

平野校長の言葉
 今回のことは「釜石のきせき」と呼ばれていますが、わたしたちにとっては「きせき」ではありません。日ごろの訓練や学習があったからこそ、想定外の津波にもかかわらず無事に避難することができたのです。そのことを兵衛のみなさんにわかってほしいと思います。

毎日新聞(2011年3月12日)の記事をもとに、二人の中学生の様子を中心に釜石東中学校の生徒の行動を追いかけてみました。

防災訓練 6年 40 41 6年 防災訓練

A 当時、鵜住居小学校は、想定浸水域から外れていたことに加え、地震による校舎の被害もなかったため、校舎3階に避難させた。しかし、避難する中学生を見て、小学生たちも避難を始めた。津波は校舎3階にも押し寄せ、校舎3階に車が突きささった。被害想定にとらわれないことの必要性を、地図や写真も使ってつかませる。

鵜住居小学校・釜石東中学校をはじめ釜石市内の学校防災を指導している群馬大学の片田敏孝教授「鵜住居小学校・釜石東中学校におけるこれまでの活動および津波襲来時の対応」(<http://dsel.ce.gunma-u.ac.jp/research/cont-302-4.html>)を参照。

「避難の3原則」 ●想定にとらわれるな ●最善を尽くせ ●率先避難者たれ

群馬大学片田敏孝教授が、釜石市の津波防災教育で児童生徒に教えた、津波から自らの命を守るための「避難3原則」。

「想定にとらわれるな」…自然災害は、人々の想定を超える。

「最善を尽くせ」…自分が置かれた状況で、得た情報をもとに最善を尽くす。

「率先避難者たれ」…率先して避難すれば、周囲の人の避難を促し、多くの人々を救う。